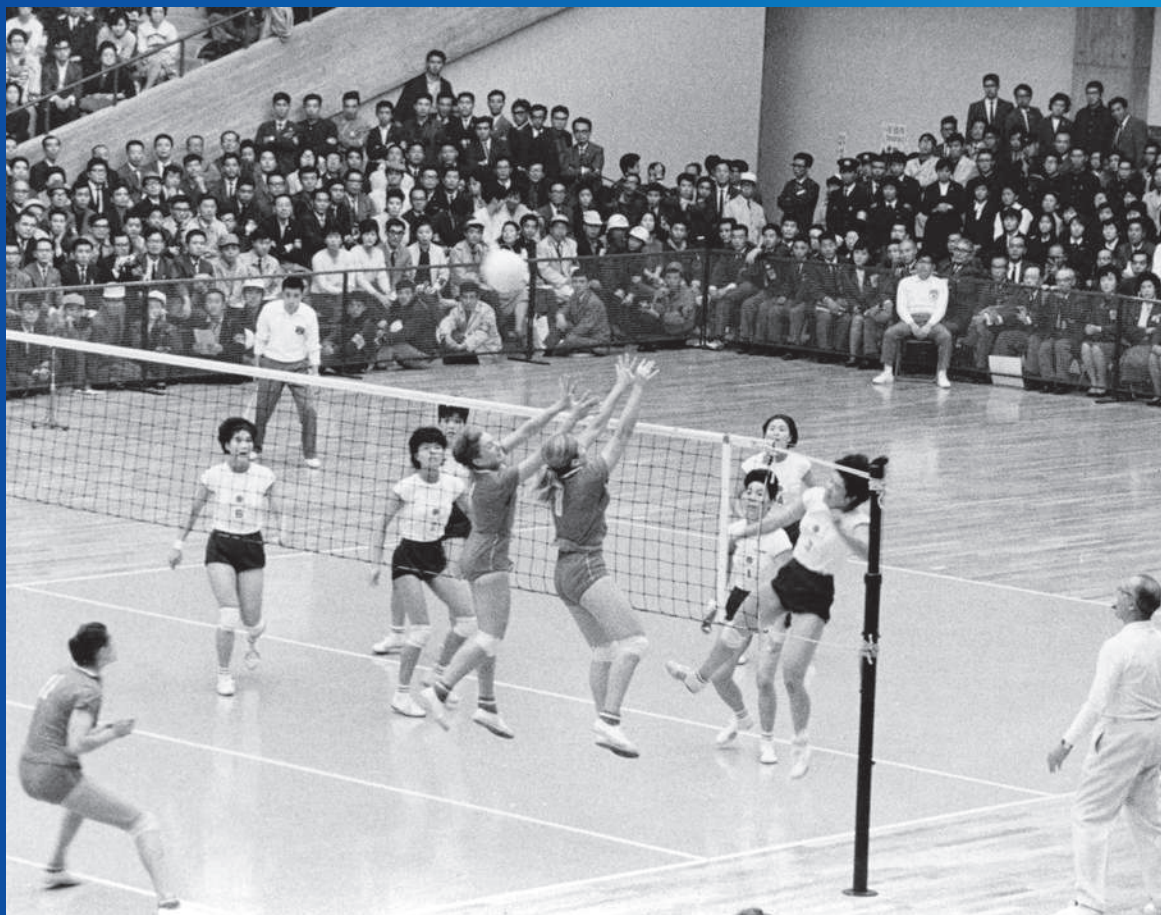


あの感動をもう一度。

〜池田と東京2020オリンピック・パラリンピック〜

2020年に入り、いよいよ近くに迫ってきた東京2020オリンピック・パラリンピック。本市出身で前東京オリンピック(1964年)のバレーボール女子金メダリスト・谷田絹子さんへのインタビューやホストタウン、聖火リレーなどの取り組みを通じて本市との関わりをご紹介します。

◀写真①



▲写真②

写真③▶



表紙：大松監督と東洋の魔女
 写真①：オリンピック優勝歓迎会
 写真②：東京オリンピック決勝戦
 写真③：東京オリンピック表彰式

※表紙写真と誌面写真①～⑥は、
 貝塚市提供。

東洋の魔女と 呼ばれて

本市出身で前東京オリンピックで
バレーボール女子金メダリストの谷
田絹子さんにお話を伺いました。

——バレーボールを始めたまっ
かけは？

中学校2年生のとき、バレーボー
ルをやっていた同級生に誘われたの
がきっかけです。私の6歳上の兄が
バレーボールをしていて、大阪の三

国中学校でコーチをしていました。
実は私が誘われた理由は、その兄を
コーチとして引っ張るためでした。
だから中学生のときはあまり一生懸
命やりませんでした。

——池田市で印象に残っている
ことは？

私は北豊島中学校に通いました。
印象に残っているのはバレーボール
部の練習が嫌いでもよくサボったこと
ですね。ただし当時の北豊島中学校
の前は、田んぼが広がっていて隠れ
る場所がない。そのため、逃げてい
ても、すぐ見つかります。隠れない



Profile

谷田（現姓：井戸川）絹子さん

1939年大阪府池田市生まれ。四天王寺高校卒業後、1958年大日本紡績株式会社貝塚工場入社、1年目からスパイカーとして活躍し、1962年第4回世界選手権で優勝。1964年日本女子バレーボールチームとして東京オリンピックに出場し、金メダルを獲得。1965年ニチボー貝塚チームを引退。以後はママさんバレーの全国普及に活躍。



▲写真④：東洋の魔女(右から2番目が谷田さん)

といけなくて、宣真高校の辺りの建
物までよく走った思い出がありますね。
——オリンピック出場までの経
緯をお話しいただけますか？

東京オリンピックが開催される2
年前の第4回世界バレーボール選手
権大会でソ連を破り優勝しました。
その際にチームが「東洋の魔女」と
名づけられました。その時はオリ
ンピックの話は全くありませんでし
た。東京オリンピックの開催が決定
し、バレーボールがオリンピックの
正式種目になった後、バレーボール
協会からの要請や全国からたくさん

手紙をいただき、大松監督とチーム
で何日も話しました。結局メンバー
同士で「あんたが出るならやるわ」「そ
れなら出るわ」といったやり取りに
なり、それならば「もう1回頑張るか」
と監督から言われました。監督はご
自身の言葉の影響力が強いことが分
かっていたから、自分から「やる」
とか「やらない」とは言われなかつ
たのだと思います。

——オリンピック出場が決まっ
たときの感想は？

純粹にうれしかったです。ただし、
全国的に「負けたらおかしい」といっ
た風潮もありましたので、「負けられ
ない、絶対勝つんだ」という気持ち
もあり、絶対に勝つ自信もありました。
オリンピックに出ると決まってい
たら、ものすごく練習しました。練
習は朝までのことも度々あり、当時
は仕事をしながらでしたので、午前
中働き午後3時から翌午前2時ごろ
まで練習。練習が終わったときに朝
番出勤の人と会うこともありました。

——オリンピックが日本で開催され、プレッシャーは大きかったですか？

特にプレッシャーは感じませんでした。私はただ上がったトスに対し、一生懸命スパイクを打つだけ。できることを淡々とこなして積み重ねていった結果、勝つことができました。よくアスリートで「楽しみます」や、「頑張ります」とコメントされている人もいますが、私は楽しむのではなく「勝ちます！」と言ってほしいです。あれだけ一生懸命練習したので試合で頑張るのは当たり前。やはり出場するなら勝たないといけないと思います。



▲写真⑤：ニチボー貝塚のメンバーと優勝記念樹

——当時のオリンピックでの空気はどのように感じましたか？

世界からさまざまな選手が集まってくる中、私たちも日本の代表として胸を張っていました。やはり各国負けられないという気持ちが強く張り詰めた空気でした。

当時、監督からも気持ちが集まらなくなると他の選手たちとの交流はだめだと言われ、言葉が通じないのもありましたが、ほとんど他国の方との交流はなかったです。それくらい勝つことに集中していたので、報道関係の方などから「もし負けたら？」という質問をされました。「絶対負けません」と返し続けました。

——再びオリンピックがやってきますが、どのような気持ちで迎えられるですか？

やはり感慨深いですね。同じ日本で大会が2度もあることは、あまりないと思うので。できれば主催側からバレーボールの観戦チケットを送ってもらいたいくらいですけどね(笑)。



▲写真⑥：東京オリンピック優勝記念パレード

——もし、出場選手たちにメッセージを届けるなら？

先ほども述べたように、頑張るのは当たり前。メダルを取れるよう、勝たないといけないという気持ちを持って最後まで気を抜かず挑んでほしいと思います。

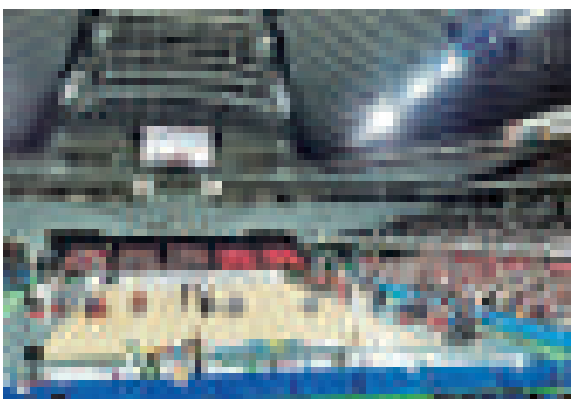
世界とつながる ホストタウン交流

本市は、今回の東京オリンピック・パラリンピックにおいてフランス車

いすラグビーチームのホストタウンとして登録されています。

ホストタウンとは、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興の観点から、事前キャンプの誘致や選手との交流イベントなど、参加国と地域との相互交流を図る地方公共団体のことで、全国各地に広がっています。

平成30年11月、NPO法人パラキャーを通じて、フランスの車いすラグビー連盟からホストタウンの依頼が届きました。その後、本市からホストタウンを承諾する旨の書簡をフランスへ提出するとともに、ホストタ



▲車いすラグビー

ウン登録申請書を大阪府へ提出。平成31年2月にフランスの同チームホストタウンとして登録されました。

大阪府主催によるホストタウンPRイベントへの参加をはじめ、パラスポーツフェスタ(23ページ参照)で車いすラグビー体験を実施するなど、障がいの有無に関わらずより多くの市民がパラスポーツを体験して幅広いスポーツの魅力を味わい、健康・体力・仲間づくりの輪を広げることが期待されています。また、市民との交流に向け、同国の歴史や文化などに触れるイベントも計画していきます。

本市はロシア男子バレーボールチームのホストタウンとしても登録されていますが、12月6日時点、同チームの参加について流動的であるため、掲載を控えます。

総合スポーツセンターの改修へ

昨年7月からホストタウン事業の取り組みの一つとして、総合スポーツセンターを改修しています。完成予定は今年5月末で、大体育室・小



▲現在の総合スポーツセンター

体育室では床や天井の改修を、また、ロッカー・シャワー室でのバリアフリー化を図ります。さらに、耐震化工事を行うほか、ロビー・談話コーナーといった共用部分では、床・壁の内装改修に加えて、備品の改修を実施します。

また、トイレの全面改修、LED照明への変更、空調機の増設・新設のほか、正面玄関周りを中心に舗装改修を行い、駐輪場は以前より60台ほど多く駐輪できるよう拡張します。

なお、改修工事の費用には、スポーツ振興くじ助成金(1億5千万円)をはじめ、交付税措置のある起債(適正管理事業債、緊急防災減災事業債)のほか、スポーツ振興基金を活用する予定です。

●池田でつなぐ聖火リレー●

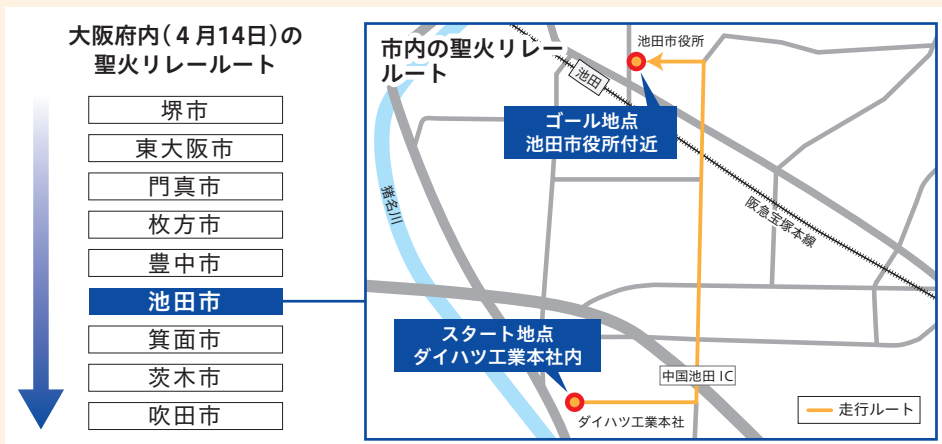
聖火リレーの火は、大会の約4カ月前に古代オリンピック発祥の地・オリンピアで採火され、聖火ランナーたちによって、日本各地を巡ります。

聖火は3月26日(木)に福島県を出発し、47都道府県を121日間かけて回り、7月24日(祝)に新国立競技場(東京都)で行われる開会式で聖火台に点火されます。

なお、パラリンピックの聖火リレーは、オリンピックの熱気と興奮をつなぐべく、オリンピック終了後8月13日(木)から25日(火)のパラリンピック開会式までの移行期間に開催します。

本市では、4月14日(火)午後3時ごろに聖火を受け取り、ダイハツ工業(株)を出発後、北上、ゴールとして池田市役所付近までの道のりを12人の走者に分かれ、聖火をつなぐ予定です。※当日は交通規制が行われます。

皆様のご理解とご協力をお願いします。



ホストタウン、総合スポーツセンター、聖火リレーの問い合わせは生涯学習推進課 ☎754・6480